



1.物質の成り立ち

- (1) 19世紀のはじめにイギリスの科学者ドルトンが命名した、物質をつくっている最小の粒。
- (2) 原子は分けられるか。
- (3) 原子は、その種類ごとに質量が決まっているか。
- (4) 原子の規則性をもとにした表。
- (5) 1869年に(4)をみつけたロシアの科学者。
- (6) 水素の原子記号。
- (7) 炭素の原子記号。
- (8) 硝素の原子記号。
- (9) 酸素の原子記号。
- (10) ネオンの原子記号。
- (11) ナトリウムの原子記号。
- (12) マグネシウムの原子記号。
- (13) アルミニウムの原子記号。
- (14) 硫黄の原子記号。
- (15) 塩素の原子記号。
- (16) アルゴンの原子記号。
- (17) カリウムの原子記号。
- (18) カルシウムの原子記号。
- (19) 鉄の原子記号。
- (20) 銅の原子記号。
- (21) 亜鉛の原子記号。
- (22) 銀の原子記号。
- (23) 金の原子記号。
- (24) 物質の性質を示す最小の粒。
- (25) 原子を表す記号を組み合わせることによって、物質を表す記号。
- (26) 酸素分子の化学式。
- (27) 水素分子の化学式。
- (28) 水の化学式。
- (29) 二酸化炭素の化学式。
- (30) 塩化ナトリウムの化学式。
- (31) アンモニアの化学式。
- (32) 1種類の原子からできている物質。
- (33) 2種類以上の原子からできている物質。
- (34) 化学変化のようすを化学式を用いて表した式。
- (35) 水が分解して水素と酸素になる化学反応式。
- (36) 酸化銀が分解して銀と酸素になる化学反応式。
- (37) 炭酸水素ナトリウムを熱分解したときの化学反応式。

1 物質をつくるもの

2 化学反応式

日付

1回目

日付

2回目

日付

3回目



目標時間
30分

1.物質の成り立ち(熱分解)

1 热 分解

- (1) 酸化銀の色。
- (2) 酸化銀を加熱すると発生する気体。
- (3) 酸化銀を加熱した後に残る物質。
- (4) 酸化銀は金属か非金属か。
- (5) 物質が別の物質に変わる変化を何というか。
- (6) 1種類の物質が2種類以上の物質に分かれる化学変化。
- (7) 加熱したときに起こる分解。
- (8) 酸化銀が熱分解するときの化学反応式。
- (9) ベーキングパウダーの主な成分。
- (10) 炭酸水素ナトリウムを加熱すると発生する気体。
- (11) 炭酸水素ナトリウムを加熱すると発生する液体。
- (12)(11)を調べるために用いるもの。
- (13)(12)は何色から何色に変わるか。
- (14) 炭酸水素ナトリウムを加熱したときの加熱後の物質。
- (15) 炭酸水素ナトリウムは水に溶けるか。
- (16)(14)は水に溶けるか。
- (17) 炭酸水素ナトリウムにフェノールフタレン液を入れたときのようす。
- (18) 炭酸水素ナトリウムは何性か。
- (19) 炭酸ナトリウムにフェノールフタレン液を入れたときのようす。
- (20) 炭酸水素ナトリウムは何性か。
- (21) 炭酸水素ナトリウムを熱分解したときの化学反応式。
- (22) 電気による物質の分解。
- (23) 純粋な水を電気分解しやすくするときに入れる物質。
- (24) 水を電気分解したときに、陽極で発生する気体。
- (25) 水を電気分解したときに、陰極で発生する気体。
- (26) 水を電気分解したときの化学反応式。
- (27) このとき得られる、水素と酸素の比。

2 水 の 電 気 分 解

日付	1回目

日付	2回目

日付	3回目

単元1 化学変化と原子・分子

2.いろいろな化学変化

□ (1) 2種類以上の物質が結びついて別の物質が生成するような化学変化。



目標時間
30分

□ (2) 酸素との化合。

□ (3) (2)のうち、光や熱を出しながら激しく進むもの。

□ (4) マグネシウムリボンを塩酸に入れると発生する気体。

□ (5) マグネシウムを加熱させた後、塩酸に入れるとどうなるか。

□ (6) マグネシウムを加熱した後の物質。

□ (7) マグネシウムを加熱させたときの化学反応式。

□ (8) 鉄を加熱させたときの化学反応式。

□ (9) 炭(炭素)を燃焼させると発生する気体。

□ (10)(9)のときの化学反応式。

□ (11) 水素が燃焼するときの化学反応式。

□ (12) 有機物を燃焼させると何と何が発生するか。

□ (13) 酸化物から酸素をとり去る化学変化。

□ (14) 酸化銅の色。

□ (15) 酸化銅に炭を混ぜて、加熱すると発生する気体。

□ (16)(15)のとき酸化銅は何に変わっているか。

□ (17)(15)のときの化学反応式。

□ (18)(15)のとき酸化されている物質。

□ (19)(15)のとき還元されている物質。

□ (20) 鉄と硫黄の混合物に磁石を近づけると引きつけられるか。

□ (21) 鉄と硫黄の混合物に塩酸を加えると発生する気体。

□ (22) 鉄と硫黄の混合物を加熱させ、その後磁石を近づけると引きつけられるか。

□ (23) 鉄と硫黄の混合物を加熱させ、その後塩酸を加えると発生する気体。

□ (24) 鉄と硫黄が化合するときの化学反応式。

□ (25) 銅と硫黄を化合するときの化学反応式。

□ (26) 物質と硫黄との化合。

□ (27)(26)によってできる物質。

日付	1回目

日付	2回目

日付	3回目



3. 化学変化と物質の質量

- (1) 炭酸水素ナトリウムに塩酸を加えたときにできる固体。
- (2) 炭酸水素ナトリウムに塩酸を加えたときにできる液体。
- (3) 炭酸水素ナトリウムに塩酸を加えたときにできる気体。
- (4) 炭酸水素ナトリウムに塩酸を加えたときの化学反応式。
- (5) 化学変化の前後で全体の質量は変化しない法則。
- (6) 銅の質量と化合する酸素の質量比。
- (7) マグネシウムの質量と化合する酸素の質量比。
- (8) 銅と酸素の化合の化学反応式。
- (9) マグネシウムと酸素の化合の化学反応式。

日付	1回目
----	-----

日付	2回目
----	-----

日付	3回目
----	-----



4. 化学変化と熱の出入り

- (1) 酸化カルシウムに水を加えると生成する物質。
- (2) (1)のような熱を発生する化学変化。
- (3) 塩化アンモニウムと水酸化バリウムに水を加えるとできる物質。
- (4) 塩化アンモニウムと水酸化バリウムに水を加えると発生する気体。
- (5) 塩化アンモニウムと水酸化バリウムを反応させると、熱を吸収する。このときの化学変化。
- (6) 化学変化での熱の出入り。

日付	1回目
----	-----

日付	2回目
----	-----

日付	3回目
----	-----